

2020年度 FM 卓越科目レポート

FM 医療概論

2021年1月27日

Fグループ

【授業前の知識】

私は現在、医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野に所属し、緩和ケアに関わる研究や勉強をしている。バックグラウンドとして看護師であるため、医学に関しては看護師として基本的な解剖学・生理学・薬学・疾患とその治療の知識や、専門分野であるがん治療、緩和ケアに関することについて知識を有していた。しかし、ゲノムなどの遺伝学に関する部分や医療経済、医工学についてはあまり知識がなかった。

【授業の目的】（「医療概論」シラバスより）

本授業は、様々な学問分野（理工学、経済学、人間学、教育学など）の知見や手法を医学・医療と融合させるための、基本的な医学知識とその実践を理解することを目的としている。「医療概論」を学ぶことで、生体の仕組みを知り、実際の臨床での病気や治療についての理解が進むことになる。さらに、現代医療の問題点と未来への展望について、講師のみならず各受講生の多様な視点を交えた考え方にも触れることになる。

【到達目標】（「医療概論」シラバスより）

「医療概論」では、必修講義に値する医学の根底と最先端医療を学ぶことに取り組む。さらに、医学的知識のみならず、医療の実践についての想像力、洞察力、基礎医学と文系理系の枠にとらわれない横断的思考力、複雑化するグローバル社会での応用力を学ぶことにつながる。

【授業内容】

- 第1回 未来型医療想像に携わるみなさんへ可能性は∞（無限大）
- 第2回 遺伝学とゲノム医療への展開
- 第3回 人体の構造とはたらき（解剖実習室での対面講義）
- 第4回 画像解剖学
- 第5回 生活習慣病におけるゲノムサイエンス
- 第6回 代謝疾患治療の最前線
- 第7回 他者の心の理解・医療とコミュニケーション
- 第8回 痛み・脳・心（痛みの定量化・エコー実習を含む対面講義）
- 第9回 医療経済分析：効果的な資源配分のために
- 第10回 口から見た地域と社会の健康のための処方箋
- 第11回 生活を支えるリハビリテーション医工学
- 第12回 医療を支える医工学

本年は、新型コロナウイルス感染症の対策のためにオンラインによる講義が多く、対面で実施できた講義は2コマのみであった。

【研究や仕事などに活かせる点】

私が特に印象に残った講義は直江清隆先生の「他者の心の理解・医療とコミュニケーション」である。この講義では、他者への共感や医療における倫理に関する内容と、ケアロボットに関する倫理的な問いやケアロボットが今後どのように活用されていくかという内容に関して考えることができた。

医療現場を例にしたコミュニケーションの事例では、患者への共感について取り上げられ、私も看護師として患者に寄り添いつつも客観的判断力を持ち続け、適度な距離を取りつつ人間的な温かみを失わない「真の共感」をしていかなければならないと身の引き締まる思いであった。

ケアロボットに関する議論では、自動採血ロボットについてどう思うかという問いに対して学生がそれぞれの意見を述べたが、賛成派と反対派に分かれた。賛成派は「ロボットの方が正確にやってくれそう」という意見が多かったのに対して、反対派「人間は許せるがロボットの失敗は許せない」、「ロボットに任せるのは怖い」という意見が出ていた。この議論から、今後医療において現在のような医療者の技術補助ではなく、自立型のロボットやAIを応用していくためには反対派の意見を踏まえ、医療を受ける側の不安にも配慮した実用方法を考えていく必要があると学ぶことができた。

相手がどのように考えているのかという「他者理解」を、自分の価値観と他者の価値観を同一視することなく客観的に考えていくことは、仕事だけでなく、研究やビジネスについて社会での実用性を考える上でも重要であると考えられる。「自分は価値があると思う」だけではなく、「他の人達はどのように考えるだろう」ということを考えていきたい。

【影響を受けたこと】

私が影響を受けたことは、医療経済に関する講義である。講義の中で、医療保険や介護保険は人々が安心して医療や介護を受けることができるという利点があるが、同時に自己負担が軽減されることを通じて医療や介護のサービスが本来適切に需要されるべき水準以上に需要されてしまうという問題があることを知った。医療者としては、それで多くの人々が救われるのであればいいのではないかと考えてしまうが、お金や労働力などの資源は有限であり、様々な視点から医療を考えることでバランスを取っていくことも必要なのだという新しい視点を持つことができた。

【来年度以降の改善点・授業の限界】

本講義の限界としては、講義内容がやや専門的な内容が多かったという点がある。医学に関する講義は理解できるものが多かったが、工学や生化学のような分野外の専

門的な内容では講義を一度聞いただけでは理解が難しい講義もあった。文系の学生ではさらに難しく感じるのではないかと考えられる。講義資料が配布されれば講義中の不明点について復習できるため、来年度は可能な限り資料の配布や、専門外の学生向けの推薦書の紹介があると自己学習に役立つと考えられる。

また、本講義が目的とする医療の基礎について学びそれぞれの専門性から医療について考えるという点においては、日本の医療システムや現在の医療現場における問題など広い内容について、総論的な講義があるとより医療への理解が深まるのではないかと考えられる。

その他グループ内の意見として、全ての講義に出席する必要があるのかというものがあった。現代医療について考える・解決策を生み出すという視点は本プログラム生であれば少なからず持っていると考えられるが、そのアプローチの仕方はロボット開発、システムづくり、基礎研究など様々である。個々の興味・関心に沿った講義を選択してより詳細に履修する方が有意義になるのではないかという意見であった。

【まとめ】

医療概論では様々な専門分野の先生から医療と研究についての講義を受けた。この講義では、自分の仕事や研究にとって大切な考え方や、これまで自分が知らなかった分野の研究・視点を学ぶことができた。今後は、医療概論をはじめとした本プログラムで学んだことを基に、未来型医療について考え、課題解決のための具体的な行動に取り組んでいきたい。